

単元名 8 表現を見つめる 一文法への扉3 一字違いで大違い

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 助詞・助動詞の働きや種類について理解し、文や文章で使われている助詞や助動詞の意味・用法を判別することができる。
(3) 今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとする。

標準的な展開例

11210303_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 付属語の助動詞について、意味や用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「一字違いで大違い」(p. 215)の上段の課題について、考える。 本時の学習課題をつかむ。 <p>★助動詞の意味や用法を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 付属語について知る。 助動詞の意味や用法について知る。 「練習問題」(p. 246)に取り組む。 <p>2 助詞の意味と用法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習課題をつかむ。 <p>★助詞の意味と用法を理解しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「助詞」(p. 246)を読み、助動詞の意味と用法を知る。 「練習問題」(p. 246, p. 248)に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「来年は」と「来年も」でどのように意味が変わるかについても考えさせたい。 実態に応じて、単語や自立語の説明をし、確認するとよい。 「付属語」(p. 244)を読んで、助詞と助動詞があることを確認する。 教科書(p. 245～p. 246)の表を見ながら解説を加える。 分からないときには教科書の解説に戻って、確認しながら問題を解くようにさせる。 【評】助動詞の意味や用法を知り、問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。 「話すこと・書くことに生かす」(p. 247)を読み、副助詞が表す意味について押さえる。 【評】助動詞の意味や用法を知り、問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。

【 備 考 】

第2学年における最終のまとめである。ここでは、様々な文章に触れながら、読んだり書いたりする力をより確かなものにするとともに、人間の様々な営みを見つめさせていく。物語の登場人物は、置かれた状況によりさまざまな側面を見せる。そうした様々な人間の営みに触れるとともに、言葉を通して自らを見つめ直し、人間に対する理解を深めさせたい。

言語活動としては、一年間の学習のまとめとなる壁新聞を作成して発表する際、自分の考えを広げるために、互いの考えについて意見を述べたり助言をしたりする活動がある。この活動は、今後の学習にも生活にも役立つことだろう。

また、多感なこの時期の生徒は、自分や他人を肯定的に見られなくなることも多い。批判的に見ることは、新たな発見や成長につながるとして認めた上で、自分との関わりから人や物事を見つめ直す経験をさせ、人間に対する理解を深め、たくましく生きていく力を養いたい。